

西暦	日付	事項	居所	典籍の出入	典拠等	備考
18861208	明治19/12/08	淡路志筑に生まれる。	志筑町一五六九番地		「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
18990400	明治32/04/xx	兵庫県立洲本中学校入学。			「〔忍頂寺務略年譜〕」(小野文庫474)	
19010200	明治34/02/xx	洲本中学二年生の終わり頃、田中晩水・高田蝶衣等とともに俳句同人「白雪会」結成。毎週土曜に会員宅持ち回りで句会を開き、洲本住の梅処という旧派俳人に添削を依頼する一方、『中学時代』『ホトヘギス』等を購読。			田中晩水「淡路の大谷繞石先生」『ひむろ』(昭和09/01)、忍頂寺静村「蝶衣の幼きころ」『ひむろ』(昭和11/02)	
19010300	明治34/03/xx	大谷正信(号、繞石)洲本中学に英語教師として着任。以後、白雪会同人、繞石に運座の方式を教わり、添削批評を受ける。			田中晩水「淡路の大谷繞石先生」『ひむろ』(昭和09/01)、忍頂寺静村「蝶衣の幼きころ」『ひむろ』(昭和11/02)	
19021100	明治35/11/xx	永田秀次郎(号、青嵐)、洲本中学の第三代校長に就任。学業の妨げになるとして生徒の句作を禁じる。			田中晩水「淡路の大谷繞石先生」『ひむろ』(昭和09/01)、忍頂寺静村「蝶衣の幼きころ」『ひむろ』(昭和11/02)	
19021100	明治35/11/xx	大谷正信(号、繞石)、洲本中学を辞して真宗大学に転任。後任の英語教師として若月保治(号、紫蘭)着任。			大谷繞石『己がこと人のこと』(昭和08/11)、忍頂寺静村「蝶衣の幼きころ」『ひむろ』(昭和11/02)	
19021219	明治35/12/19	白雪会同人による俳句雑誌『落ち栗』創刊。高田蝶衣序、大谷繞石題字。			『落ち栗』1(昭和35/12)	
19030305	明治36/03/05	白雪会同人俳句雑誌『落ち栗』第2号発行。大谷繞石送別記念号となり、事実上の終刊号となる。			高木蒼梧「蝶衣雑俎(二)」『ひむろ』(昭和17/09)	
19030715	明治36/07/15	『ホトヘギス』第6巻第11号「地方俳句界」欄に、「白雪会」の俳句六句中、務(号、木筆)の「雨乞の人騒がしや千光寺」句も載る。同欄「テフイアン小集」欄にも、木筆「山吹や子持たぬ人のうらやまし」句掲載。			『ホトヘギス』6-11(昭和36/07)	
19030925	明治36/09/25	『ホトヘギス』第6巻第13号「地方俳句界」欄に「洲本町夕見町高田蝶衣報」として「テフイ庵会」の句三句掲載。務(号、木筆)の「真中に橋ある池や蓮の花」句も載る。			『ホトヘギス』6-13(昭和36/09)	
19031120	明治36/11/20	『ホトヘギス』第7巻第2号「地方俳句界」欄に、「白雪会」の報として、唯一、務(号、木筆)の「仁王尊の足もと暗し虫の声」句が載る。			『ホトヘギス』7-12(明治36/11)	
19040320	明治37/03/20	兵庫県立洲本中学校卒業。その頃の句に、木筆号で「もずさしは松下の宿に入りにけり」「仏跡のある棧道の落葉かな」。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)、 「〔忍頂寺務略年譜〕」(小野文庫474)、 「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19040410	明治37/04/10	『ホトヘギス』第7巻第7号「地方俳句界」欄に、「テフイ庵会」の句二句掲載。務(号、木筆)の「羊飼ふ牧場に多し落の臺」と蝶衣句。			『ホトヘギス』7-12(明治37/04)	
19080401	明治41/04/01	神戸高等商業学校卒業。その頃の句に、「暁やかまどの中に蚊のねむる」。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)、 「〔忍頂寺務略年譜〕」(小野文庫474)、 「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19120000	大正01/xx/xx	神戸に居住。(大正初年～09、10年頃)	神戸市葺合区熊内		「〔忍頂寺務略年譜〕」(小野文庫474)	
19170600	大正06/06/xx	珍書保存会成る。後に務も会員に。				
19190111	大正08/01/11	森西ウイリアムス合資会社出資金八万円。無限責任社員となる。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)、 「〔忍頂寺務略年譜〕」(小野文庫474)、 「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19220000	大正11/xx/xx	大阪に居住。(1年間)	大阪市南区勝山通二丁目		「〔忍頂寺務略年譜〕」(小野文庫474)および務宛書簡の番地	
19220000	大正11/xx/xx	この頃、九州の某書生に、「諸行無常朝顔もあり夕顔も」「麦の穂に出たる話や城の跡(砂山城跡にて)」の二句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	

19220310	大正11/03/10			『一目千本／花すまひ』 (務←吉田書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十一年三月十日／ 吉田書店にて「一目千本 ／花すまひ」下巻一冊を金 一円五十銭にて購入す、 落丁あり惜しきものなり、」
19220417	大正11/04/17			吉原細見廓の賑ひ[明 治十年五月福田栄蔵 編](務←鹿田書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十一年四月十七日 ／鹿田にて買入の、「吉原 細見廓の賑ひ」明治十年 五月福田栄蔵編によれば …(略)…」
19220421	大正11/04/21			名物細見[明治元年冬 刊](務←鹿田書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 405)	「大正十一年四月二十一 日／鹿田書店にて、明治 元年冬刊行の「名物細見」 を購入す。」
19220504	大正11/05/04			『吉原源氏六十帖評判』 上巻(務←細川書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十一年五月四日／ 京都細川書店より、「吉原 源氏六十帖評判上巻一冊 だけ購入す、此書に付て は、「奇書珍籍吉原号」 に、左の如く解説せり、」
19220516	大正11/05/16	成田山参詣、狂歌「甚兵衛のそばではねたる海老蔵も成田さんでは永代お手長」。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台 忍頂寺家)	
19220517	大正11/05/17	軽井沢に遊び、狂歌「名物はねぶかの尻の軽井沢人を追分くつかけの里」。善光寺にて、如来像の所有権訴訟の噂を聞き、狂歌「如来様はそしやうと迄は申されじ大本願が大かんじんぞ」。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台 忍頂寺家)	
19220906	大正11/09/06	富士川下りに興じ、狂歌「富士川は日蓮托生かじか沢沈高沈木井でやつと身延す」。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台 忍頂寺家)	
19221024	大正11/10/24			『吉原大黒舞』(務←鹿 田書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十一年十月廿四日 ／「吉原大黒舞」欠本一冊 を鹿田より買入る、「奇書 珍籍」第三号によれば、… (略)…と記されて居る、此 書が一冊でも見付つたの は、誠に珍中の珍であ る。」
19221027	大正11/10/27			品川の細見(務←鹿田 書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 405)	「大正十一年十月廿七日 ／鹿田より永田文庫の本 の中にて 曾満人作の絵 本を購入す、書名不明、品 川の細見なり。」
19230200	大正12/02/xx	大蔵大臣市来乙彦に面会のため、20日間程度東京に滞在。狂歌「市来ても乙彦もなく逢へぬなりなぜ川崎に愛之輔とは」。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台 忍頂寺家)	
19230205	大正12/02/05			『吉原大評判ゑにし染』 (務←鹿田書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十二年二月五日／ 鹿田にて「吉原大評判ゑ にし染」四冊を買入る、… (略)…永田文庫の所蔵な りしものにて、始めより一 冊欠本となり居りし様に思 はる、」
19230207	大正12/02/07			当代全盛高名細見(務 ←吉田書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十二年二月七日／ 吉田書店にて「当代全盛 高名細見」を、金二十銭に て購入す、」
19230000	大正12/xx/xx	春より神戸に転居。	神戸市葺合区上筒井 通七丁目		「〔忍頂寺務略年譜〕」(小 野文庫474)	
19230410	大正12/04/10	水谷文庫本入札。		『吉原恋の道引』(務←)	小野文庫348『奇書珍籍』3 (大正09/06)45頁、務書込 による。	「吉原恋の道引」に関する 記事余白に、墨筆書込「大 正十二年四月十日水谷文 庫本入札、代金一百八十 円なりき」

19230510	大正12/05/10			傾城新色三味線細見 (務←吉田書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十二年五月十日/ 吉田書店より「傾城新色三 味線細見」江戸の巻と云 ふ、欠本一冊を購入す、」
19231003	大正12/10/03			『吉原大鑑』初篇初篇上 下二冊(務←鹿田書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十二年十月三日/ 鹿田より「吉原大鑑」初篇 上下二冊を購入す、」
19231110	大正12/11/10			「カーマストラ」翻訳資 料(務←)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十二年十一月十日 /京都大谷大学内に存す る印度学会、其基金に充 つるために、印度の古典 「カーマストラ」を翻訳し て有志者に配布したるが、 幸にして一本を手にし侍た り、」
19230000	大正12/xx/xx	冬、日光に遊ぶ。道中の句に「火を焚くや文挾の駅時雨して」。				「〔忍頂寺務句集〕」(仙台 忍頂寺家)
19230000	大正12/xx/xx	この頃、俳句「裸々として冬山近しぶな落葉」「水鳥の足も凍るや冬の朝」の二句あり。				「〔忍頂寺務句集〕」(仙台 忍頂寺家)
19240127	大正13/01/27			『五大菩薩手鏡』(務 ←細川書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十三年一月廿七日 /細川より「五大菩薩手 鏡」と云ふ書物を買入る、 …(略)…珍書なり、元来 二冊なりしと思はるれど、 大阪の部を欠ぎたるは惜 し、」
19240203	大正13/02/03			『八百八後家／ふし穴さ がし』『後の月見』(務← 吉田書店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 405)	「大正十三年二月三日/ …(略)…近頃吉田書店よ り同書(「八百八後家／ふ し穴さがし」…青田註)並に 前記の「後の月見」を購入 す、代金二冊にて十二円と は高価と云ふ可し、」
19240300	大正13/03/xx	『延寿清話』を創刊する。				『大江戸之研究延寿清話』 1
19240305	大正13/03/05			袖が浦細見記[亥の春 改正板](務←吉田書 店)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 405)	「大正十三年三月五日/ 東京吉田書店より、「袖が 浦細見記、亥の春改正」、 と云ふ一本を買入る、」
19240324	大正13/03/24	成田図書館に『延寿清話』送る。				報告書・山本論 日付は、受入印による。確 認し得る、成田への最初 の寄贈。
19240510	大正13/05/10			吉原細見[文政二年秋 板](務←)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十三年五月十日/ 文政二年秋の吉原細見を 購入す、」
19241000	大正13/10/xx	湯朝竹山人を識る。				
19250118	大正14/01/18			よし原細見記[明治廿八 年板](務←)	「〔自筆ノート〕」(小野文庫 406)	「大正十四年一月十八日 /明治廿八年の「よし原細 見記」を買入る、」
19250127	大正14/01/27	うた沢社主催・大阪朝日新聞社後援「江戸音曲大会」(於・大阪毎日新聞社)に『葉うた虎之巻』二十枚を出陳。				『うた沢』7(大正14/02/20)
19250309	大正14/03/09	三田村鳶魚に『延寿清話』送る。				三田村鳶魚「日記」

19250400	大正14/04/xx	書史会同人に名を連ねる。また、同月19日の「大阪に関する書籍展」(於・書林俱樂部、主催・書史会同人)にて、『耳塵集』『にはたづみ』『やくしや一口商』『歌舞妓雑談』『梅玉余響』『放し鳥』『浪花風流繁昌記』『戯動大丈夫』および『狂歌戎の鯛』を出陳。			『大阪に関する書籍展覧会目録』(大正14/04)、報告書・肥田論	同人は、伊藤一男・石川留吉・忍頂寺務・本田溪花坊・豊仲末鳴・藤堂卓・高尾彦四郎・南木芳太郎・中村正二郎・中尾熊太郎・長尾桃郎・松本正治・小西一四三・青木平七・青山督太郎・荒木幸太郎・佐古慶三・三宅吉之助・鹿田文一郎・平井桜州。
19250522	大正14/05/22	三田村鳶魚に『延寿清話』送る。			三田村鳶魚「日記」	
19250716	大正14/07/16			『拾遺枕草紙花街抄』(務←積徳堂)	小野文庫350「拾遺枕草紙／花街抄」(務書写本)巻末註記による。	巻末註記に「積徳堂にて金三十円、大正十四年七月十六日 金十円昭和十三年五月十五日」とあり。
19250817	大正14/08/17			細見(務←杉本梁江堂)	〔自筆ノート〕(小野文庫405)	「大正十四年八月十七日／杉本より無名の細見一冊金五円にて購入す、「島原細見」なりと称するも、内容は島原と些も合致せず」
19250919	大正14/09/19			『吉原出世鑑』(務←鹿田書店)	〔自筆ノート〕(小野文庫406)	「大正十四年九月十九日／「吉原出世鑑」を二十円にて鹿田より購入す。」
19251200	大正14/12/xx	同年月現在、彩壺会会員。(～昭和04年12月?)			「大正十四年度報告附会員名簿」	住所は「神戸市上筒井通七ノ九〇」
19260316	大正15/03/16	湯朝観明の案内で三田村鳶魚を訪問。				
19260331	大正15/03/31			菊の園(務←)	〔自筆ノート〕(小野文庫405)	「大正十五年三月三十一日／江戸男色細見「菊の園」写本を金十五円にて購入す、…(略)…原本旧蔵者豊芥子の書入に…(略)…」
19260500	大正15/05/xx	書史会第16回例会にて、市川団十郎関係の典籍を出陳。			報告書・肥田論	
19260815	大正15/08/15	大阪市の書林俱樂部にて開かれた書史会主催虫干会において洒落本を出展。			同目録(個人蔵)	
19270131	昭和02/01/31	鳶魚より『雑文穿袋』返却。			三田村鳶魚「日記」	
19270208	昭和02/02/08	大正天皇御大葬に際し、俳句「土の香や多摩の陵春浅き」。			〔忍頂寺務句集〕(仙台忍頂寺家)	
19270603	昭和02/06/03	石川巖より異本吉原細見を送致さる。			〔自筆ノート〕(小野文庫406)	「昭和二年六月三日／石川氏より送り越せる「異本吉原細見」といふは…(略)…」
19270000	昭和02/xx/xx	秋頃、坪井禿山の紹介で、板愈良(号、龍齋・祐生)と相知る。			報告書・山本論	
19280000	昭和03/xx/xx	高野辰之に『色里名取川』を貸与す(入手も比較的近い頃か)。『日本歌謡集成』第7巻に所収との予告あり。		『色里名取川』	「日本歌謡集成 附録」(二)(小野文庫466)	
19280000	昭和03/xx/xx	高野辰之に『笑本板古猫』を謄写して寄贈す(入手も比較的近い頃か)。『日本歌謡集成』第9巻に所収との予告あり。		『笑本板古猫』	「日本歌謡集成 附録」(四)(小野文庫466)	
19280000	昭和03/xx/xx	高野辰之に宛て「最近大阪で伊勢音頭の一本を獲得した」云々と知らせる。務作成の「二見真砂」対照表、「大阪音頭」正誤表が載る。次号附録(八)にて「二見真砂の補遺七篇」が務より高野宛に寄贈され掲載さる。			「日本歌謡集成 附録」(七)(八)(小野文庫466)	
19280106	昭和03/01/06	大阪新町の吉田屋にて夕霧会あり(主催者:高安六郎、木谷蓬吟、南木芳太郎)、参加か。夕食後、地唄「夕霧文章」・繁太夫節「三吉」の演奏を聴く。吉田屋の古い「定め書」等の陳列あり。			〔自筆ノート〕(小野文庫403)	
19280202	昭和03/02/02			新宿細見(務←杉本梁江堂)	〔自筆ノート〕(小野文庫405)	「昭和三年二月二日／新宿細見一冊杉本梁江堂より購入す。」
19280510	昭和03/05/10	鳶魚に吉井太郎『淡路ト西宮ニ於ケル人形操ノ調査』送る。			三田村鳶魚「日記」	
19280709	昭和03/07/09	鳶魚に『西宮昔噺』を送る。			三田村鳶魚「日記」	
19280812	昭和03/08/12	大阪西区南堀江の書林俱樂部にて開催された「古書趣味の会」に「洒落本十種」を出展。うち、『月花余情』『原柳巷花語』『女鬼産』あり。			同通知(個人蔵)	
19290203	昭和04/02/03	旅先の城崎にて「ほぐのひんと」(『古本屋』7)脱稿。			『古本屋』7(昭和04/03)	
19290526	昭和04/05/26	「書物談話会」にて、『庵のうめ集』契沖阿闍梨百五十回忌追悼集を出品。			報告書・肥田論	

19290728	昭和04/07/28				天保八年伊勢古市細見(務←)	〔自筆ノート〕(小野文庫405)	「昭和四年七月二十八日／天保八年伊勢古市細見を購入す。」(頭注に「本書もと表紙には「天保八年新版、古市細見花の葉、柳窓春門画」と記せり」とあり)
19291022	昭和04/10/22	鳶魚に原稿を送る。				三田村鳶魚「日記」	
19300000	昭和05/xx/xx	湯朝竹山人に二十円貸与。狂歌「赤き袖の裏をかへして二十円つまはかさじと二渋面する」。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300000	昭和05/xx/xx	岡田某から壺入酒を贈られ、狂歌「壺入はかつたものぞと思ひしにまけてもろたと聞くもはづかし」「酒なればお足とらるゝばかりなりおふてもろふて伊丹諸白」。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300000	昭和05/xx/xx	多田琴代と結婚か。世話になった岡田に、狂歌「つまごとのしらべは松に甲斐ありて嘉納と聞くも御影なるらん」一首を贈る。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300100	昭和05/01/xx	『あかほんや』の編輯同人(「赤本屋連中」)に名を連ねる。(～廃刊となる昭和06/05の4号まで継続)				『あかほんや』1(昭和05/01)	
19300111	昭和05/01/11	浜口雄幸内閣の金解禁を祝して、狂歌「春袋あけて黄金をみちのくのうまとし聞けばはね上るらん」。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300112	昭和05/01/12	白鶴酒造より年始としてひねり餅・酒粕を贈られた礼に、狂歌「ひねり餅きゝ酒などゝ百日の仕込をするはとじ(杜氏)の功なり」、俳句「かず／＼の心尽しやかずならぬ身にも賜はる白鶴のかす」の一首一句を贈る。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300000	昭和05/xx/xx	春、九州福岡に出向く石川巖を、往復とも神戸にて、菅竹浦とともに歓待。「忍頂寺兄からは軟派に関する珍書を食傷する程満喫させられたことは九大の失望を此所で医せられた観があつた。」				『文献志林』4(昭和05/06)	
19300408	昭和05/04/08	吉田長祥より胃薬「友愛」を贈られた礼に、狂歌「UIIはEの薬でAといふ君の恵にOぞうれしき」、俳句「神薬のよるこび申せ雀の子」の一首一句を贈る。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300504	昭和05/05/04	『愛書趣味』休刊号贈与の礼として、斎藤昌三に「先達の昼寝気遣はし雲の峰」の一句を贈る。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300514	昭和05/05/14	城崎地代値引の交渉に際して、狂歌「一割や薬師の顔を立てゝ引く二割は私利のくらい観音」「城崎は御苦労さんにナアあんた土地ふるはねば地ちん払はず」の二首あり。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300515	昭和05/05/15	『清元研究』刊行。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300522	昭和05/05/22	『清元研究』を鳶魚に送る。				三田村鳶魚「日記」	
19300600	昭和05/06/xx	『清元研究』出版記念に、山口幸三郎等七名の有志より象牙の「淡路静村文庫」印一顆を贈られ、狂歌「賜はり印は象牙の粹なれば普見簿冊のこしに押さなん」。同印は仙台忍頂寺家に、贈呈目録は小野文庫476に現存。				〔「淡路静村文庫」印贈呈目録〕(小野文庫476)、〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	〔「忍頂寺務略年譜」〕(小野文庫474)に、「蔵書印、昭和五年の出版記念に、以文山人氏より贈らる」とあるは小野麗子氏の記憶違いか。以文山人作の蔵書印「静村文庫」は、昭和23年に成る。あるいは、それ以外の印が以文山人作の可能性も残されるが、現時点では不明。
19300602	昭和05/06/02	大谷正信(号、繞石)に『清元研究』を贈り、俳句「虫干にまがるもつらし唄の本」の一句とその英訳“ At Summer Airing will bother and makes me sad The Book of Ballad ”を添える。同書を江見某に贈るに際しては、「紙魚の家を作りかねてや老日永」「時鳥しやがもありけり唄の本」「つまへては忘るゝ本や虫払ひ」の三句と各句英訳を添え、江本某に贈るに「かみなりの姿みにくし不破の関」の一句とその英訳を添える。江本・江見は洲本中学同窓生か。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300604	昭和05/06/04	務、南木芳太郎に会見。				『南木芳太郎日記』	
19300624	昭和05/06/24	大阪新聞夕刊に京阪神に於ける文献の研究者として、名を連ねる。「洒落本の研究—忍頂寺務氏」。				『南木芳太郎日記』昭和5年6月27日の記事に拠る。	
19300821	昭和05/08/21	辰馬保険争議の仲裁人伊賀歌吉に、「色人を相手に踊れ三津五郎」の一句を添えて『清元研究』を贈る。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300000	昭和05/xx/xx	夏から秋にかけて城崎に遊び、「立つ秋をレヨンの財布緊縮す」「開山の肌をさしたる蚊の子かな」「此村の口マンスをなけ時鳥」の三句成る。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19300000	昭和05/xx/xx	石川巖に「赤本の長者になれやみのる秋」の一句を贈る。				〔「忍頂寺務句集」〕(仙台忍頂寺家)	
19301128	昭和05/11/28	務書状が南木芳太郎のもとに届く。				『南木芳太郎日記』	
19301223	昭和05/12/23	南木芳太郎、務宛に書簡を送る。				『南木芳太郎日記』	
19301225	昭和05/12/25	南木芳太郎に湯朝竹山人宿所不明の旨を伝える。				『南木芳太郎日記』	

19301231	昭和05/12/31	城崎に遊び、俳句「数え足らぬ黄金うらめし除夜の鐘」「年の瀬や黄金を惜む町の人」「鴻の湯や時雨を厭ふ湯女の足」成る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310110	昭和06/01/10	浜家熊雄より、差し押さえられた唐金火鉢の代わりに支那火鉢を贈られ、狂歌「ハツトリとわれたミヤケのから金にかへてたまはる支那火鉢かな」。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310115	昭和06/01/15	異父弟誠一より寒雉子二羽到来、狂歌「踊らせて高麗雉子をあげまするナトリになればカン雉子といへ」を添えて、一羽を浜家熊雄に贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310129	昭和06/01/29	森西ウイリアムス合資会社解散。清算人となる。(昭和10/10/05清算終了)			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)、 「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310130	昭和06/01/30	岡田から白鶴の酒粕を贈られて、狂歌「白さんのかすはねよげに見ゆるなり雪の膚のぼつとりとして」「白さんのかすみに酔ひし山下の春はみぎより又左りより」「鶯の糞なら顔へぬりて見ん鶴のかす故腹にのりせん」。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310214	昭和06/02/14	『上方』第2号の礼として、狂歌「上方も二号といへばなまめかし天下茶屋では名題ものにて」を南木芳太郎に贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310300	昭和06/03/xx	長女出生。『易経』「日月麗乎天。百穀草木麗乎土。重明以麗乎正。乃化成天下」を典拠に「麗子」と命名。狂歌「天に麗(つ)きあきらかなれと寿ぎて易の辞を名に与へけり」。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310302	昭和06/03/02	城崎に遊び、俳句「冴えかへる腰のいたみや柳の湯」成る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310323	昭和06/03/23	野崎左文に、狂歌「穴ごもりしても甲羅のかゞやきてきやうかに深くのこす足跡」の一首を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310331	昭和06/03/31	江見某に、俳句「顔をかくす御屋敷さまや春の雨」の一句を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310425	昭和06/04/25	斎藤洲司に「栄転のよろこびあれや桜鯛」の一句を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310427	昭和06/04/27	横田某の次男逝去に寄せて、「いとし子は南無とばかりや四月尽」他四句の俳句を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310430	昭和06/04/30	城崎に遊び、「一の湯の湯女見に行かん春の宵」「鶴を見に但馬の旅や春寒き」の二句成る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310500	昭和06/05/xx	神戸陳書会第三回例会にて、清元に関する講演をおこなう。			『陳書』1(昭和06/08)	
19310530	昭和06/05/30	浜家熊雄義弟の結婚祝として、「この蚊帳にあふるゝ迄やめをと鶴」の一句と蚊帳を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19310700	昭和06/07/xx	「兵庫ぶし目録」に関する調査を行う(対象:太田文庫、禾舟文庫、静村文庫、山村文庫)			小野文庫373「はやり音頭兵庫ぶし」(務自筆資料)	
19310807	昭和06/08/07	陳書会会員として会員名簿に名を連ねる。	神戸市上筒井通七丁目九〇		『陳書』1(昭和06/08)	居所は名簿による。
19310830	昭和06/08/30			『宮まゐり吾孀のつと』(務←梁江堂)	「[自筆ノート]」(小野文庫406)	「昭和六年八月三十日／梁江堂より「宮まゐり吾孀のつと」を購入す、」
19310911	昭和06/09/11	前川某へ「傾城の話つきせぬ夜長かな」の一句を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19311011	昭和06/10/11	「秋風や白き鼻毛に老を知る」「金のなき但馬の人や秋の雨」の二句成る。また、この頃、城崎に遊び、「霧の海かすかに見ゆる灯火をそれぞれと拝む温泉寺山」の一首成る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19311013	昭和06/10/13	「天よし」にて夕食、「秋もやゝさよりの味の細かなる」「鰻汁に人を誘ふや夕時雨」の二句成る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19311025	昭和06/10/25	某人に「恋やいづこロイド眼鏡に秋早き」の一句を添えて眼鏡を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19311113	昭和06/11/13	高鍋某に「賢人の冬ごもりして須磨の里」他三句を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19311117	昭和06/11/17	高鍋某に「団欒の夜長を踊る子供かな」の一句を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19311121	昭和06/11/21	浜家熊雄に「行厨に日影みじかき腹かげん」の一句、石川巖に「酔人の羽織うらやむ案山子かな」「葦の花を吹き折りてまた秋のゆく」「桑の葉の黄なるもわびし冬近き」「蕉葉に音たてゝ又秋の行く」の四句を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19311200	昭和06/12/xx	横山伝次郎の逝去の報に接し、狂歌「横山にチブスの虫が取つきて息も伝次郎フクマくるしき」一首成る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19311212	昭和06/12/12	浜家熊雄の代理として、川畑某女に「踏まれてもまた来る春に咲き出でん御空のさだめ君を忘れじ」他五首を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19311216	昭和06/12/16	全快内祝として岡田より風呂敷を贈られ、狂歌「ふろしきの包むに余る喜びや手のまひ足の舞ひも忘れて」を返送。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	

19320100	昭和07/01/xx	神戸住所変更。	神戸市葺合区上筒井通七丁目九〇		『陳書』2(昭和07/01)	
19320101	昭和07/01/01	申年にあたり、諸式高騰を、狂歌「ものゝねは高まが原のかみまかせ黄金の幣も見ざる年にて」と詠む。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320205	昭和07/02/05	津村秀松に「春の日や麗らに光る庭の石」、飯島花月に「春をまつ大樹のかげを掃きにけり」の一句を返句として贈る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320207	昭和07/02/07	岡田某より白鶴の酒粕を贈られて、狂歌「酒のみにかすと申して給はりし鶴の粕こそ酒の実(ミ)にして」。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320303	昭和07/03/03	板倉某(号、無底)の司法代書士停止に、狂歌「道楽をしはうだい書の板倉に底が無ければ金も貸されず」。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320420	昭和07/04/20	浜家熊雄義妹木村氏の出産にあたり、俳句「初の子の春や鶴亀松竹梅」「軍国の春に寿ぐ嫡子かな」の二句を贈る。川島右次に「富貴もあり冥加もあれや草の春」の一句を贈る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320429	昭和07/04/29	神戸大倉山楠寺境内に高田蝶衣句碑「行者のぼりし足跡よりぞ雪とくる」建立、昔を追憶し、「春やむかし旅に興ぜしを蝶衣仏」の一句を詠む。北摂池田に遊び、「春もやゝ呉服の里に忍ぶ恋」「麗人の指や小鮎の塩かげん」の二句を得る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320430	昭和07/04/30	大丸事件に際し、俳句「花に嵐老鶴の巣に歎きあり」。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320500	昭和07/05/xx	鳶魚の談話に、鳶魚の師は佐藤牧山、その享年九十五と聞く。また、当年、水谷不倒七十五歳、坪内逍遙七十四歳、笹川臨風六十三歳、伊原青々園六十三歳で、鳶魚自身も六十三歳と聞く。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
193205005	昭和07/05/05	江口某次女の出産祝に、「寿を申す御家や八重霞」の一句を贈る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320513	昭和07/05/13	東京市長永田秀次郎(号、青嵐)に、「江都一の市長をほめよ揚雲雀」の一句を呈す。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320513	昭和07/05/13	岡田某の快復につき、医師原田某に「友の病あやめもわかぬ日のありし」の一句を添えて礼状を認む。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320515	昭和07/05/15	京都賀茂の葵祭を拝観し、「違あれやあふひ祭の人の数」「扇流す西の祭や嵐山」の二句を得る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320601	昭和07/06/01	鳶魚より細見図返還。			三田村鳶魚「日記」	
19320606	昭和07/06/06	三宮で鳶魚を迎え会食。(川島右次、横田照二、菅稻吉)			三田村鳶魚「日記」	
19320607	昭和07/06/07	鳶魚見送り。鳶魚に『江府年中行事誌』送る。			三田村鳶魚「日記」	
19320610	昭和07/06/10	きぬゑの婚姻に際し、「様は百まで生田の森の楠若葉」の一句を贈る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320625	昭和07/06/25	川畑某女にクサヤ干物の礼として、「島鯨の味昼寝の恋も消ゆるとき」の一句を贈る。また、同じころ、同女に、浜家熊雄の代わりとして「文殻の煙の行方したひつゝ淡路島山あかずながめぬ」「とけしなく又いとぼしき淡路人我には断えぬ思出のある」の二首、柿の香合と盆の礼として「かう合の柿色なるもはづかしや盆の月ほど丸く得納めで」の一首を贈る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320711	昭和07/07/11	富山の木村省三より子供の写真を送られた返書に、「鵬の子の飛ぶ日をまつや夏の峯」の一句を贈る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320719	昭和07/07/19	鳶魚を三宮で出迎え、多田宅、午後に吉井太郎を訪問。鳶魚に『武庫の川千鳥』貸す。			三田村鳶魚「日記」	
19320720	昭和07/07/20	菅と鳶魚を訪問し、石割を訪う。夜、満韓旅行帰りの鳶魚の歓迎会を兼ねた陳書会例会を開催。五十崎夏次郎、南木芳太郎、太田睦郎、川島右次ら席上にあり。鳶魚の談話に、医師饗庭東庭は饗庭篁村の祖先にあたると聞く。			三田村鳶魚「日記」、『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	『陳書』4(昭和09/02)では、昭和07/07/15と誤記。
19320722	昭和07/07/22	鳶魚同道にて宮武省三を訪問。			三田村鳶魚「日記」	
19320723	昭和07/07/23	鳶魚、多田同道。			三田村鳶魚「日記」	
19320728	昭和07/07/28	野崎左文より団扇の画の暑中見舞いを送られた返書に、「絵にかいた団扇の風もなつかしくあつき情をあふぎ見るなり」の一首を添える。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320812	昭和07/08/12	鳶魚より『武庫の川千鳥』返却。			三田村鳶魚「日記」	
19320900	昭和07/09/xx	大谷正信(号、繞石)より『繞石句集落椿』を贈られ、俳句「拝領の句集うれしき夜長かな」。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	小野文庫231
19320904	昭和07/09/04	「名曲鑑賞 第十一回 清元「御名残押絵交張」」の解説者としてラジオに出演。			『東京朝日新聞』(昭和07/09/04)のラジオ番組欄	
19320905	昭和07/09/05	江戸銀で鈴木某と会食し、「勘八の料理語らん江戸の秋」「平目のさしみ故郷を語る秋なりき」の二句を得る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320908	昭和07/09/08	鳶魚を訪問、不会。			三田村鳶魚「日記」	
19320915	昭和07/09/15	メロン鑑賞会の礼として、岡田に「おくさまのつくるメロンは天下一かゞみにうつる鼻の高さよ」の一首を贈る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	
19320923	昭和07/09/23	下呂温泉での同窓会に不参の旨、狂歌「ひだの湯に下呂といふ名もいとほしやろもじゆもじと我は覚えて」一首を添えて申し送る。			『〔忍頂寺務句集〕』(仙台忍頂寺家)	

19320930	昭和07/09/30	日和山に遊び、「帆の見えぬ一日はさびし秋はれて」の一句を得る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19321019	昭和07/10/19	某人に大手饅頭を貰い、俳句「秋まつり村には古き見世のある」。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19321101	昭和07/11/01	浜家熊雄に「白いかの酢みそに話す冬どなり」の一句を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19320000	昭和07/xx/xx	木村省三より白柿を贈られ、俳句「白柿に越のたよりや冬ごもり」。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19321216	昭和07/12/16	洛北の藤井紫影宅を訪ね、『吉原大豆俵』を借りる。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19321219	昭和07/12/19	鳶魚に『心中二十種』送る。				三田村鳶魚「日記」	
19330310	昭和08/03/11	木村末子の婚礼として、「様と契る末は八千代の玉椿」「かなふとは末頼もしき辻占やせ一さんに誠さゝげて」の一句一首を添えて椿の花模様の帯地を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19330312	昭和08/03/12	藤井紫影、瀬原退蔵を訪問、『三味線花実集』の話あり。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19330422	昭和08/04/22	鳶魚より著書恵与。				三田村鳶魚「日記」	
19330424	昭和08/04/24	海軍大佐高鍋三吉に「ほがらかにうたふ春なり須磨の里」の一句を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19330510	昭和08/05/10	山本英子・小林十則の婚姻に、狂歌「初の夜にわるゝもうれし真寸鏡とつぎ合せてまるき契りぞ」「十則のおきて守りて家を興し世にも英でよ小林の人」の二首を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19330514	昭和08/05/14			『遊女懐中洗濯』江戸の巻(務←吉田書店)		「[自筆ノート]」(小野文庫406)	「昭和八年五月十四日／「遊女懐中[フトコロ]洗濯」五冊、宝永年間の版なりと「日本小説年表」に記さる。今度吉田書店よりその中の江戸の巻一冊を購入す。」とあり。なお、日付は昭和「五」年を「八」に訂正するも、ここでは訂正後の年月に従った。
19330518	昭和08/05/18			甲府細見(務←吉田書店)		「[自筆ノート]」(小野文庫406)	「昭和八年五月十八日／甲府細見と称するものを吉田書店より購入す、」
19330605	昭和08/06/05	小林十則に「新妻もこもる春なり鶴の宿」の一句を贈る。住吉大社御文庫を見て、「御文庫は幾世栄えて松の花」の一句を得る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19330616	昭和08/06/16	大丸副支店長深堀某の葬儀に際し、「安中の人弔へや時鳥」の一句を詠む。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19330623	昭和08/06/23	鹿田静七の逝去に、俳句「思ひ出の左筆も悲し落し文」。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19330724	昭和08/07/24	鳶魚へ『淡国通記』送付。				三田村鳶魚「日記」	
19330921	昭和08/09/21	駒田彦之丞より『侘齋文集』下賜、「うれしさに繙く文も夜長にて」の一句を得る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19331011	昭和08/10/11	藤井行雄の長男出征中の逝去に接し、「子に思ひ残してつばめ帰らん」の一句を詠む。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19331107	昭和08/11/07	神戸港祭に遊び、「津の七野街に成りすゝき名に残る」の一句を得る。『花月随筆』寄贈の礼に、信州上田飯島家に「炉ひらけば老翁みますが如くなり」の一句を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	小野文庫185
19331117	昭和08/11/17	大谷正信(号、繞石)広島で逝去、追悼に「経をよむ鴨の涙も新たなる」の一句を詠む。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19331125	昭和08/11/25	前川清二に「謹言の腸にしむ海鼠かな」の一句を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	



19331219	昭和08/12/19				『北川蜆売』(務←中村積徳堂古典部)	『北川蜆売』(忍頂寺文庫A132)挟み込み中村積徳堂古典部書簡による	書簡の全文は以下。「忍頂寺様／拝啓 今般御注文の「北川蜆売」同封仕候御買上有度候 代金参拾円に候／本日「天明三年版」素保本人人序／花盛金生木[はなさかりかねのなるき] 小本洒落本一冊モノ入手仕候 御入用に候ならば御注文次第早速発送仕可候 代金貳拾五円に候」(黒ペン書)。宛名の下に「大阪市東区平野町四丁目三番地 中村積徳堂古典部」、末尾に「昭和八年十二月拾九日」と青印あり。また、書簡中「洒落本」に対して、務の書込(黒鉛筆)「滑稽本ナラン文化三」との註記あり。
19331200	昭和08/12/xx	「サラリーマン」の歌題で、狂歌「サラリ／＼かねて積らぬ笹の雪さなく鳥の足に消えつゝ」「月きふでつる／＼てんと舞ひながらまたせん年の風雲をまつ」の二首成る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19331223	昭和08/12/23	「春はござれ皇子あもります東海に」「天つ日高寿詞に榮えて富士の雪」の二句成る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19340124	昭和09/01/24	東京転居につき、陳書会同人有志の発起で、神戸市栄町二丁目の東月にて送別会が催される。出席者二十余名。俳句「出代りやお江戸にうとき島男」。				『ひむろ』『消息』(昭和09/03)・「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19340200	昭和09/02/xx	英十三と面会、一中節・河東節・清元における合いの手に関して談話。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19340200	昭和09/02/xx	高岸拓川と面会。三番叟の西藏(チベット)伝来について、河口慧海より先に佐々木照二が明治三十九年五月二十五日付「二六新報」に発表していたことをめぐり、談話。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19340201	昭和09/02/01	城崎の某人に「東なる江戸の浄るり忘れても願へ薬師の瑠璃の浄土を」の一首を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19340203	昭和09/02/03	東京勤務に伴い転居。(～昭和12/03) 出立時の俳句「出代りや汽車にて急ぐ東海道」「都入りの今宵はうれし春の宵」。				「[忍頂寺務略年譜]」(小野文庫474)、「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	「[忍頂寺務略年譜]」(小野文庫474)では、東京在勤を昭和11年3月までとするが、誤りか。書簡の宛先住所等によって改める。
19340205	昭和09/02/05	上京、鳶魚を訪う。東京での仮寓を菊富士ホテルに定める。	東京市本郷区菊坂町菊富士ホテル→東京市牛込区市ヶ谷本村町三十五番地			三田村鳶魚「日記」、『ひむろ』『消息』(昭和09/03)、「[忍頂寺務略年譜]」(小野文庫474)および務宛書簡宛先	
19340206	昭和09/02/06	某人に「松かげに寒さをいとへ鶴の宿」の一句を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	仮寓先の菊富士ホテルでの句か。
19340211	昭和09/02/11	浜家熊雄に「佃煮に小魚をあさる春寒き」の一句を添えて佃煮を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19340218	昭和09/02/18	西鶴輪講会参加。文反古一。鳶魚、木村捨三、間民夫、森銑三、野々村戎三、柴田泰助。				三田村鳶魚「日記」	
19340300	昭和09/03/xx	東京出遊を記念して『潮来舟』を著す。知人に配布せんため。					
19340307	昭和09/03/07	合資会社ギル商会設立に従事。				「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19340323	昭和09/03/23	家族を迎えに神戸に下る。夜、東京駅で坂井華溪と偶然遭遇し、寝台列車に同乗、食堂車で痛飲する。	神戸			坂井華溪「消息」『ひむろ』(昭和09/03)	
19340325	昭和09/03/25	家族を連れて東京へ出発。見送りの人々、小坂・松村・梶原・岡松・横田・西尾・高鍋・浜家・木村・藤谷・加納・岡田・江見・斎藤・木村・忍頂寺・多田・藤井・中村・菅・長岡・堀本・宮崎・笹山。	東京			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19340500	昭和09/05/xx	愛庵会(神戸高等商業学校初代校長水島鍊也顕彰会)への入会を断り、一句「煎餅のしめるうらみや五月雨」。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19340826	昭和09/08/26	陸軍大佐高鍋三吉に「初秋や淡路の人の帰り行く」の一句を贈る。				「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	

19340909	昭和09/09/09	鳶魚を訪う。半日閑話。			三田村鳶魚「日記」	
19340923	昭和09/09/23	鳶魚来。『潮来舟』渡す。			三田村鳶魚「日記」	
19341001	昭和09/10/01	鳶魚蒐集にかかる吉原細見の一覧表を作成、務所蔵のものと照合を行う。			「〔自筆ノート〕」(小野文庫408)	昭和19年11月の、天理図書館への務蔵書売却書目を書き込む
19341000	昭和09/10/xx	高岸拓川に、「眼にうつる故郷の山や茸の味」「松茸に勇健とかく便りかな」の二句を添えて松茸を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19341000	昭和09/10/xx	横田照二に、病氣見舞として「長養の秘策もありて菊の露」の一句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19341200	昭和09/12/xx	同年2月上京後、10ヶ月の間に数多の書物入手。そのうちの珍なるものが「朱雀遠目鏡跡追」。		『朱雀遠目鏡跡追』巻二	務「朱雀遠目鏡跡追」『陳書』5(昭和10/01)	
19341231	昭和09/12/31	「この春もめでたや千代の小豆餅」の一句を添えて、高岸拓川に年始の礼として餅を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19350000	昭和10/xx/xx			『色里迦陵頻』『吉原下職原』『八曲筐掛絵』(務←)、『新道行揃』『千朴秘曲集』『都羽二重懐中扇』も同時期か?)	務「一中節稀観本」『陳書』6(昭和11/04)	「昨年蒐集し得た書物の中には、「色里迦陵頻」の完本一冊「吉原下職原」といふ評判記一冊、「八曲筐掛絵」といふ二代目義太夫の追善浄瑠璃一冊など有った。然し此処に紹介したいものは、左の一節の書物二冊であります。」として「新道行揃 一冊」「千朴秘曲集 一冊」の解説を掲げ、「以上二冊の外に「都羽二重懐中扇」横本一冊…(略)…百白い書物も有りますが、之は他の機会に譲ります。(十一、二、二八)」とあり。
19350000	昭和10/xx/xx	淡路由良の人に「短夜の夢にも通へ沼島女郎」「瀬多川や舟を流して蜆とる」の二句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19350107	昭和10/01/07	大内兵衛兄山口敬堂の長寿を祝い、「古稀に喜に米も祝へや長き春」の一句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19350109	昭和10/01/09	横田照二に「冬山や穂高の神に誘はれて」の一句を添えて絵葉書を送る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19350124	昭和10/01/24	河本某へ「紙魚の喰むに任せてうれし古法帖」の一句を贈る。某人へ宛てた慰問袋に「鉄砲の凍る寒さを語りけり」の一句を記す。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19350129	昭和10/01/29	川島右次に「売りものは霞の衣春の宵」の一句を添えて絵葉書を送る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19350217	昭和10/02/17	柏木潤三を訪問し、「みむす日の神のみたまになれる身をはかなきかずに思ひ捨めや 重胤」と書した鈴木重胤の軸物一見。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19350500	昭和10/05/xx			『俳諧志都織』(務←仲野安雄翁旧蔵書入札)	坂井華溪「消息」『ひむろ』(昭和10/06)	
19350608	昭和10/06/08	野崎左文逝去に際し、狂歌「なむあみだ南無なみだにて拝むなりお経のあととは狂歌まじりに」と詠む。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19350714	昭和10/07/14	鳶魚を訪う、不会。夜、鳶魚来る。			三田村鳶魚「日記」	
19350915	昭和10/09/15	午後二時、鳶魚を訪う。閑談、九時に及ぶ。			三田村鳶魚「日記」	
19350921	昭和10/09/21	神戸行、二十四日、東京に戻る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19351000	昭和10/10/xx	三田村鳶魚と談話。元文年間の堀尾新九郎守保は耳鳥斎の先蹤という。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19351010	昭和10/10/10	高岸拓川に「きび餅に胡国の冬の早かりき」の一句を添えて高粱餅を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19351018	昭和10/10/18	図書寮に樹下快淳を訪問。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19351031	昭和10/10/31	不在中、鳶魚来。			三田村鳶魚「日記」	
19351110	昭和10/11/10	鳶魚来る。瓦版十点貸す。			三田村鳶魚「日記」	
19351115	昭和10/11/15	鳶魚へ瓦版一点届ける。			三田村鳶魚「日記」	

19351200	昭和10/12/xx	高岸拓川に「健啖の客うらやまし年忘れ」の一句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19351200	昭和10/12/xx	横田照二に「団欒にユハイムの菓子や春近き」の一句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19360000	昭和11/xx/xx	「市川団十郎関係の書物を、ここ20年余心がけて蒐集」		『八日目華』(務←)(先年は『遠々みます』『しもふさ身旅喰』を得る)	務「八日目華」『陳書』7(昭和11/12)
19360100	昭和11/01/xx	題「海上雲遠」の歳旦吟「大海を指さず神や初日影」。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19360119	昭和11/01/19	田中治之助こと英十三と、一中節・河東節の節付や、松本交山・石井仏心・石井柏亭等の江戸画人をめぐって談話。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19360122	昭和11/01/22	田中治之助こと英十三に、先日の礼として「獅子舞に鱈酒たまはる遊びかな」の一句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19360126	昭和11/01/26	「蝶衣の幼きころ」執筆。			忍頂寺静村「蝶衣の幼きころ」『ひむろ』(昭和11/02)
19360128	昭和11/01/28	鳶魚来る。瓦版十一点返却。『下職原』の写しを貸す。			三田村鳶魚「日記」
19360201	昭和11/02/01	「蝶衣の幼きころ」、『ひむろ』掲載。			忍頂寺静村「蝶衣の幼きころ」『ひむろ』(昭和11/02)
19360216	昭和11/02/16	鳶魚来る。『下職原』返却、『呼子鳥』『大豆俵』(ともに写本)貸す。			三田村鳶魚「日記」
19360222	昭和11/02/22	鳶魚来る。『呼子鳥』『大豆俵』返却。三茶三幅一対を貸す。			三田村鳶魚「日記」
19360301	昭和11/03/01	鳶魚来る。ハアロット氏への問い合わせを頼まれる。『遊所甚孝記』『全盛名所鑑』『三茶三幅一対』『傾国乱髪』貸す。			三田村鳶魚「日記」
19360304	昭和11/03/04	鳶魚来る。神戸よりの来書の訳を頼まれる。『全盛名所鑑』『三茶三幅一対』返却。			三田村鳶魚「日記」
19360305	昭和11/03/05	横田照二に「戒厳の都大路や春寒き」の一句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19360306	昭和11/03/06	夜、鳶魚来る。『梅の春』を三絃にかかるよう英訳せし話をする。			三田村鳶魚「日記」
19360315	昭和11/03/15	鳶魚、山田清作来る。『いとなみ六方』『色男栄万歳』貸す。			三田村鳶魚「日記」
19360423	昭和11/04/23	木村照子の婚礼に、隆達古意にならって「様はいづる日春の庭に照る心うれし」の一句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19360505	昭和11/05/05	鳶魚来る。『遊所甚孝記』『傾国乱髪』返却。『吉原下職原』『新やくはらい』『十二段』貸す。			三田村鳶魚「日記」
19360514	昭和11/05/14	鳶魚来る。『吉原下職原』『新やくはらい』『十二段』返却。			三田村鳶魚「日記」
19360526	昭和11/05/26	鳶魚を訪う。延享細見借りる。			三田村鳶魚「日記」
19360606	昭和11/06/06	鳶魚を訪う。不逢。延享細見返す。			三田村鳶魚「日記」
19360610	昭和11/06/10	高岸拓川に「麦秋や八つ茶の菜に山椒こぶ」の一句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19360614	昭和11/06/14	夜、鳶魚来る。瓦版二点返却、新たに五点貸す。			三田村鳶魚「日記」
19360615	昭和11/06/15	鳶魚より、せつ女をして瓦版返却。『洞房古鑑』、宝暦細見、延享細見六冊を貸与せらる。			三田村鳶魚「日記」
19360701	昭和11/07/01	鳶魚を訪う。細見返す。			三田村鳶魚「日記」
19360815	昭和11/08/15	鳶魚より貸借の『洞房古鑑』、謄写し終わる。			小野文庫382『洞房古鑑』巻末註記
19360818	昭和11/08/18	鳶魚を訪う。『洞房古鑑』返す。『吉原規言証文』『酔間漫語』を借りる。『吉原六方』返却。			三田村鳶魚「日記」
19361004	昭和11/10/04	夜、鳶魚を訪う。『竜宮船』『淡路詞』『富士の袖』貸す。『淡路詞』はその場で鳶魚書写。			三田村鳶魚「日記」
19361010	昭和11/10/10	高岸拓川逝去の報に接す。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19361200	昭和11/12/xx	歳暮吟「凧や石の舗道に吹きすさむ」「凧や蓑虫の巢の顛倒す」「毎日に逐はれて遂に年暮るゝ」「犬小屋に松飾りする翁かな」「松飾り今日無事の住居かな」「大道の靴にふまるゝ落葉かな」「大江戸の名残や庭に白椿」。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19370000	昭和12/xx/xx	父の墓参のため淡路志筑へ帰省し、「故郷は仏ばかりや冬の月」の一句あり。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)
19370202	昭和12/02/02	鳶魚より細見一冊、『竜宮船』四冊、『題詠詞』一冊返送。鳶魚書写の『露殿物語』借りる。			三田村鳶魚「日記」
19370215	昭和12/02/15	鳶魚に天明細見について書を送る。			三田村鳶魚「日記」
19370227	昭和12/02/27	鳶魚を訪う。『露殿物語』返す。享保細見借りる。			三田村鳶魚「日記」
19370307	昭和12/03/07	鳶魚へ裏打ち用の紙見本送る。			三田村鳶魚「日記」
19370309	昭和12/03/09	八重を連れて鳶魚来る。『甚孝記』を遣る。			三田村鳶魚「日記」
19370328	昭和12/03/28	東京を去り、帰郷。その前に鳶魚を訪う。			三田村鳶魚「日記」

19370329	昭和12/03/29	神戸市灘区に転居。(灘区在は昭和20/08頃まで)「思ひ出の唄もありなん帰る雁」「春未し小鳥の餌の乏しくて」「顧みてほゝゑむ人や朧月」の句あり。	神戸市灘区篠原南町三丁目四七五ノ三一		坂井華溪「消息」『ひむろ』(昭和12/05)、「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)、「[忍頂寺務略年譜]」(小野文庫474)および務宛書簡宛先	「[忍頂寺務略年譜]」(小野文庫474)では、東京在勤を昭和11年3月までとするが、誤りか。書簡の宛先住所等によって改める。
19370521	昭和12/05/21	鳶魚へ手製の煮山椒送る。			三田村鳶魚「日記」	
19370717	昭和12/07/17	鳶魚へ吉原の長屋について問い合わせる。			三田村鳶魚「日記」	
19370719	昭和12/07/19	鳶魚より吉原の長屋について返書。			三田村鳶魚「日記」	
19370801	昭和12/08/01	鳶魚へ書。『江戸自慢』『切見世さんけ』同封。			三田村鳶魚「日記」	
19370802	昭和12/08/02	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	
19370824	昭和12/08/24	鳶魚へ『翠箔志』送付。			三田村鳶魚「日記」	
19370827	昭和12/08/27	鳶魚より『翠箔志』帰り来る。			三田村鳶魚「日記」	
19370900	昭和12/09/xx	御影町の前川清二邸で開かれた陳書会例会に、最近入手した『みちのかたち』を出品。そのまま前川清二に貸与。		『みちのかたち』	坂井華溪「みちのかたち(複製)」『ひむろ』(昭和12/11)	
19370904	昭和12/09/04	鳶魚へ『金銀御製造扣』『陳書』『神戸事変と滝善三郎』郵送。			三田村鳶魚「日記」	
19370916	昭和12/09/16	鳶魚より『御製造扣』『切見世さんけ』細見返送。調べ物一綴送られる。			三田村鳶魚「日記」	
19370924	昭和12/09/24	鳶魚へ『価帖独案内』『仮宅色歌仙』、値段付安永細見二冊、天明細見二冊送付。			三田村鳶魚「日記」	
19370928	昭和12/09/28	鳶魚より貸与の物返却。			三田村鳶魚「日記」	
19371100	昭和12/11/xx	坂井華溪に「落葉低く庭に舞ひあり留守にして」「横を切る女を恨む夜長かな」の二句を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19380319	昭和13/03/19	鳶魚へ珍書四点送付。			三田村鳶魚「日記」	
19380409	昭和13/04/09			『久恒翁採存』(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19380418	昭和13/04/18	鳶魚へ木芽つくだに贈与。			三田村鳶魚「日記」	
19380511	昭和13/05/11			『阿淡=(タン)叢』『辰巳風俗永代談話』『松のみどり』『華の旅』『咄の蔓』『潮来舟』『武家義理物語輪講』『心中くどき二十種』『改正新貨條例』『淡路方言資料』『吉原下識原』『間似合早粹』『論語町』『狂歌戎の鯛』『志具禮乃碑』(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19380531	昭和13/05/31			二十点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19380606	昭和13/06/06	鳶魚より珍書四点返送。			三田村鳶魚「日記」	
19380629	昭和13/06/29	鳶魚へ『御為替方月勘定之留』『白門新柳記』送付。			三田村鳶魚「日記」	
19380706	昭和13/07/06	鳶魚より洪水見舞い。			三田村鳶魚「日記」	
19380709	昭和13/07/09	鳶魚へ無難の返書。			三田村鳶魚「日記」	
19380726	昭和13/07/26	鳶魚へ聖徳太子の画葉書。			三田村鳶魚「日記」	
19380808	昭和13/08/08	鳶魚より本二冊返却。			三田村鳶魚「日記」	
19380901	昭和13/09/01			『紅蘭遺稿』『開化千字文』以下計十四点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19381016	昭和13/10/16	鳶魚へ十九日の神戸陳書会への参加を問う。鳶魚十九日に東京発ゆえ無理との由。			三田村鳶魚「日記」	
19381112	昭和13/11/12	在関西の鳶魚を訪う。			三田村鳶魚「日記」	
19381126	昭和13/11/26			『兵庫くどき(写本)』『校本兵庫くどき』(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19381213	昭和13/12/13	鳶魚へ『北里通』『繁鶴心中』を送る。			三田村鳶魚「日記」	
19381214	昭和13/12/14	鳶魚より『吉原通』返送。『富士の袖』借りる。			三田村鳶魚「日記」	
19390129	昭和14/01/29	神戸陳書会・例会に出席。(於・御影前川邸)			『陳書』10(昭和14/04/01)	
19390310	昭和14/03/10	親戚の子供の高等学校への入学のため上京。夜、鳶魚を訪う。馬琴作『北国順礼唄方便』貸す。			三田村鳶魚「日記」	
19390315	昭和14/03/15	鳶魚経由で山田氏より『椎園』三冊届く。			三田村鳶魚「日記」	

19390316	昭和14/03/16	鳶魚より十円返金。残り七十円なり。			三田村鳶魚「日記」	
19390320	昭和14/03/20	鳶魚へ江戸凶彙の挿し絵候補送る。			三田村鳶魚「日記」	
19390326	昭和14/03/26	浜家熊雄が鳶魚を訪うに手紙を書く。			三田村鳶魚「日記」	
19390400	昭和14/04/xx	『江戸読本』世話人(笹本寅)来訪、同誌連載「江戸凶彙」の材料数点を借る。			『江戸読本』12号(昭和14/05/10)	
19390405	昭和14/04/05	鳶魚へ上京の由、書を送る。			三田村鳶魚「日記」	
19390406	昭和14/04/06	浜家氏子息同道にて鳶魚を訪う。			三田村鳶魚「日記」	
19390407	昭和14/04/07	野々村氏同道にて鳶魚を訪う。			三田村鳶魚「日記」	
19390428	昭和14/04/28	鳶魚へ書物五点。			三田村鳶魚「日記」	
19390429	昭和14/04/29	鳶魚へ木のめの佃煮送る。			三田村鳶魚「日記」	
19390430	昭和14/04/30	鳶魚へ『清元研究』原稿送る。			三田村鳶魚「日記」	
19390500	昭和14/05/xx	安井某に、杉の実の礼として「母の里に来て杉の実をなつかしむ」の一句を贈る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19390513	昭和14/05/13	鳶魚より新刊一冊恵与。			三田村鳶魚「日記」	
19390522	昭和14/05/22	鳶魚へ『清元研究』『七遊談』送る。			三田村鳶魚「日記」	
19390530	昭和14/05/30	鳶魚より書一冊。			三田村鳶魚「日記」	
19390602	昭和14/06/02	鳶魚へ木の芽の佃煮送る。			三田村鳶魚「日記」	
19390621	昭和14/06/21	鳶魚より返金。残り五十円。			三田村鳶魚「日記」	
19390702	昭和14/07/02	鳶魚へチャラ金二片送付。			三田村鳶魚「日記」	
19390724	昭和14/07/24			四点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19390823	昭和14/08/23	鳶魚へ江戸凶彙、間に合わぬ由申し送る。			三田村鳶魚「日記」	
19390827	昭和14/08/27	鳶魚へ百足小判等郵送。			三田村鳶魚「日記」	
19390912	昭和14/09/12	合資会社ギル商会出資金一万円有限責任社員となる。			「〔手帳(昭和二十二年)度)〕」(小野文庫419)・「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19390914	昭和14/09/14	鳶魚へ『潮来舟』送る。『中古風俗志』のこと申し送る。			三田村鳶魚「日記」	
19390917	昭和14/09/17	鳶魚より『遊婦里会談』『志家位名見』『百人一首』『都々逸つゑ』『北国順礼唄方便』『仕方俳諧』返却。			三田村鳶魚「日記」	
19390928	昭和14/09/28	鳶魚へ『清元研究』原稿送る。			三田村鳶魚「日記」	
19391022	昭和14/10/22	鳶魚より『七遊談』一冊、『吉原大黒舞』一冊返送。			三田村鳶魚「日記」	
19391030	昭和14/10/30	鳶魚へ書。来月十日上京。			三田村鳶魚「日記」	
19391110	昭和14/11/10	上京。			三田村鳶魚「日記」	
19391111	昭和14/11/11	鳶魚を訪う。浜家熊雄同道。			三田村鳶魚「日記」	
19400000	昭和15/xx/xx	白地手形の訴訟に勝利し、「勝瑞のやきものはもと白地にて焼けた手形の跡を眠平」の狂歌を田中葉に示す。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19400000	昭和15/xx/xx	この年、「坂八里行者の宿や蕎麦の花」「遠近の山時雨行く午下り」「サーカスの小屋に時雨るゝ一日かな」「小冠者の魚呼ぶ声や夏の朝」「夏山や虹の尾をふむはかりごと」の五句成る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19400123	昭和15/01/23			『流行吾妻唄』三十四冊(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19400202	昭和15/02/02	鳶魚より『歌野二娼』、享保十四、十五年細見の問い合わせ。			三田村鳶魚「日記」	
19400228	昭和15/02/28	鳶魚へ『女意亭有嘶』『男女不躰形』『諸国色里帖独案内』貸す。			三田村鳶魚「日記」	
19400304	昭和15/03/04	鳶魚より三冊返却。			三田村鳶魚「日記」	
19400306	昭和15/03/06			いたこ唄本15冊、洒落本10冊、都踊り2冊、『誉の魁』2冊、題箋大中小150枚(務←三村書店)	仙台忍頂寺家所蔵資料「貿易屋の古机」に挟み込まれた請求書	「paid 8/3/40」のペン書きあり
19400322	昭和15/03/22	夜、鳶魚を訪う。蜀山人の『会計私記』貸す。			三田村鳶魚「日記」	
19400400	昭和15/04/xx	神戸中央土地建物株式会社取締役となる。			「〔手帳(昭和二十二年)度)〕」(小野文庫419)・「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19400405	昭和15/04/05	鳶魚へ享保細見二冊貸す。			三田村鳶魚「日記」	
19400419	昭和15/04/19			『狂歌百人一首』他四十八冊(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19400509	昭和15/05/09	鳶魚より享保細見二冊返却。			三田村鳶魚「日記」	
19400612	昭和15/06/12	神経衰弱の気味なるを鳶魚へ書き送る。			三田村鳶魚「日記」	
19401200	昭和15/12/xx	「竹外と雲如」(『陳書』12)脱稿。			『陳書』12(昭和16/05)	

19401230	昭和15/12/30	小野弘・麗子の長男として初孫恵嗣誕生。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19410000	昭和16/xx/xx	この年、「大農に褒状賜はる日鶴の来る」「霜の朝湯殿にくさめ響きけり」「小春日や小指に残る温泉(ユ)の香り」「春雨や小湯女の髪のとけしなき」「宣戦の詔天にあり鶴の舞ふ」の五句成る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19410017	昭和16/xx/17			二点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19410520	昭和16/05/20			『有馬ぶし』他計二十二部(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19410601	昭和16/06/01			『晃山遊草』他計二十七点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19410824	昭和16/08/24	鳶魚へ神戸商大の大黒長左衛門文書について返書。			三田村鳶魚「日記」	
19410907	昭和16/09/07	鳶魚へ『銀座役所向図』送る。			三田村鳶魚「日記」	
19410925	昭和16/09/25	鳶魚、神戸へ、忍頂寺務宅へ投ず。旧債八十円、残り三十円を鳶魚より務へ返却、完済。『大成経』購入の由。			三田村鳶魚「日記」	
19410927	昭和16/09/27	鳶魚、帰る。			三田村鳶魚「日記」	
19411112	昭和16/11/12			五点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19411129	昭和16/11/29	鳶魚より新刊恵与。			三田村鳶魚「日記」	
19420101	昭和17/01/01	歳旦吟「大捷の御稜威かしこし初日影」「古傷の痛む夕さり雁渡る」「監視哨雁の渡るを報じけり」「初日影寿詞(ヨゴト)にどよむ淡路島」。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19420107	昭和17/01/07	「一中節稀観本」(『陳書』13)脱稿。			『陳書』13(昭和17/05)	
19420421	昭和17/04/21	鳶魚より手紙。『緯学源流興廃考』につきて。			三田村鳶魚「日記」	
19420427	昭和17/04/27	小野弘・麗子の次男として孫晃嗣誕生。「男山と祈りし児なり楠若葉」の一句を得る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19420500	昭和17/05/xx			一点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19420609	昭和17/06/09	鳶魚へ返信。			三田村鳶魚「日記」	
19420610	昭和17/06/10			一点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19420700	昭和17/07/xx	神戸史談会の会員となる。			『神戸史談会会報』190(昭和17/07/25)「新入会員」欄および「会費領収報告」欄	務の住所は「神戸市灘区篠原南町三丁目四七五ノ三一」
19420915	昭和17/09/15			一点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19421015	昭和17/10/15	「頼三樹三郎の書翰」(『陳書』14)脱稿。			『陳書』14(昭和17/12)	
19421021	昭和17/10/21			『狂歌阿淡百人一首』 『増補琴曲浜の砂子』 『長歌絃曲舞しらべ』『どどいつ葉唄節用集』『声くらべ 第二編』『俗曲集』 他四点(務→神戸市立図書館)	神戸市立図書館「寄贈図書控簿」	
19421108	昭和17/11/08	神戸陳書会・例会出席。(於・妙法寺)			『陳書』14(昭和17/12/28)	
19430124	昭和18/01/24	鳶魚へ『陳書』十四輯送る。			三田村鳶魚「日記」	
19430300	昭和18/03/xx	この頃、「春の水鳩の古巢の流れよる」「芋化して鰻にやならむ春の水」の二句成る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19430415	昭和18/04/15	鳶魚へコウナゴ送る。			三田村鳶魚「日記」	
19430627	昭和18/06/27	鳶魚へ『物はなし』三冊送る。			三田村鳶魚「日記」	
19430917	昭和18/09/17	永田秀次郎(号、青嵐)逝去に際し、「大樹枯れて淡路の秋のさびしさよ」と詠む。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19431000	昭和18/10/xx	淡路志筑にて「待避とよんで孫走りくるや萩の庭」の一句成る。			「〔忍頂寺務句集〕」(仙台忍頂寺家)	
19431030	昭和18/10/30	中村幸彦と同道、京都智勝院に投宿中の鳶魚を訪う。ともに城崎へ出立。			日記(小野文庫418)	
19431100	昭和18/11/xx	本月中書写の書物『万里砂』『妙心寺出世次第覚書』『大灯国師行状』『法淵繁興略記』『正法山出世位階等法式略記』『玉鳳院塔主職法服一条願書写』『繪旨頂戴趣意定書』			日記(小野文庫418)	

19431103	昭和18/11/03	智勝院の鳶魚を訪い、五日夜まで滞在し仕事を手伝う。			日記(小野文庫418)	
19431106	昭和18/11/06	智勝院の鳶魚を訪い、七日夜まで滞在し仕事を手伝う。寒天を贈る。			日記(小野文庫418)	
19431113	昭和18/11/13	智勝院の鳶魚を訪い、十四日夜まで滞在し仕事を手伝う。寿司の素を贈る。			日記(小野文庫418)	
19431121	昭和18/11/21	智勝院の鳶魚を訪い、仕事を手伝う。菓子を贈る。			日記(小野文庫418)	
19431123	昭和18/11/23	智勝院の鳶魚を訪い、仕事を手伝う。			日記(小野文庫418)	
19431129	昭和18/11/29	(鳶魚に小豆を贈り、ともに)陽明文庫に行く。城崎へ出立。			日記(小野文庫418)	
19431200	昭和18/12/xx	本月中書写の書物『侍真寮略須知』『樹下散稿』『紙衣膳』(三分の一)			日記(小野文庫418)	
19431203	昭和18/12/03	智勝院の鳶魚を訪い、仕事の打ち合わせ。『侍真寮略須知』謄写始める。			日記(小野文庫418)	
19431204	昭和18/12/04	鳶魚帰京。			日記(小野文庫418)	
19431207	昭和18/12/07	南陵と鳶魚、雑用金五〇円送り来る。			三田村鳶魚「日記」	
19431208	昭和18/12/08	鳶魚より書(五日付)。陽明文庫蔵『於御前演舌仕候心覚』、法然院蔵二点、雑萃院蔵『紙衣膳』を至急書写の旨申し越す。			日記(小野文庫418)	同日記末尾に「雑華院 渋谷鼎山殿」とあり。
19431210	昭和18/12/10	鳶魚より書(六日付)。			日記(小野文庫418)	
19431211	昭和18/12/11	南陵より法然院費用として金五〇円到着。智勝院を訪問、天祥院面会し仕事打ち合わせ。祝儀および茶一斤宛贈る。			日記(小野文庫418)	同日記末尾に「天祥院 釈浩堂殿」とあり。
19431212	昭和18/12/12	『侍真寮略須知』返却し、写本を渡す。天祥院の中村を訪い、『樹下散稿』『万里砂』を借りる。鳶魚と南陵へ書。			日記(小野文庫418)	
19431213	昭和18/12/13	『樹下散稿』謄写始める。			日記(小野文庫418)	
19431215	昭和18/12/15	鳶魚へ書。天祥院のこと。			三田村鳶魚「日記」	
19431216	昭和18/12/16	鳶魚より書。			日記(小野文庫418)	
19431218	昭和18/12/18	天祥院、雑萃院至りて教会所に宿泊。寿司の素を贈る。中村来訪。			日記(小野文庫418)	
19431219	昭和18/12/19	雑萃院にて『紙衣膳』謄写始める。			日記(小野文庫418)	
19431220	昭和18/12/20	『樹下散稿』一、二巻謄写了。三巻欠にて、本日より四巻に着手。中村書写『於御前演舌仕候心覚』を鳶魚に郵送。			日記(小野文庫418)	
19431221	昭和18/12/21	鳶魚より『西力東漸本末』一冊送り来る。			三田村鳶魚「日記」	
19431223	昭和18/12/23	鳶魚へ写し物一〇枚(中村氏写)送る。			三田村鳶魚「日記」	
19431225	昭和18/12/25	天祥院、雑萃院を訪問。片栗粉および祝儀を贈る。			日記(小野文庫418)	
19431226	昭和18/12/26	天祥院、雑萃院を訪問。『紙衣膳』謄写す。『樹下散稿』返却。写本二冊渡す。天祥院より書、紙二百枚受け取る。			日記(小野文庫418)	
19431226	昭和18/12/26	小野弘・麗子の三男として、孫介嗣誕生。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19440000	昭和19/xx/xx	この年、「腹やせて路溝にあへぐ蛙かな」の吟あり。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19440100	昭和19/01/xx	本月中書写の書物『万里砂』二冊『紙衣膳』(三分の二)『唱語故実』一冊。			日記(小野文庫418)	
19440102	昭和19/01/02	鳶魚より書。			日記(小野文庫418)	
19440105	昭和19/01/05	天祥院を訪問。寒天および祝儀を贈る。雑萃院にて『紙衣膳』謄写す。			日記(小野文庫418)	
19440109	昭和19/01/09	天祥院を訪問。小豆を贈る。雑萃院にて『紙衣膳』謄写す。			日記(小野文庫418)	
19440114	昭和19/01/14	雑萃院にて『紙衣膳』謄写す。			日記(小野文庫418)	
19440116	昭和19/01/16	天祥院を訪問。柿および祝儀を贈る。『万里砂』貸出。雑萃院に行く。			日記(小野文庫418)	
19440118	昭和19/01/18	鳶魚より書(十二日付)。			日記(小野文庫418)	
19440123	昭和19/01/23	天祥院を訪問。牛肉および祝儀を贈る。雑萃院に行く。			日記(小野文庫418)	
19440124	昭和19/01/24	鳶魚より書。			日記(小野文庫418)	
19440124	昭和19/01/24	鳶魚、務に宛て「教化—」を発送。			演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	
19440129	昭和19/01/29	天祥院を訪問。ハッタイ粉を贈る。『万里砂』二冊返却し、同写本二冊渡す。紙受け取る。『万里砂』巻三、巻四貸出。雑萃院『紙衣膳』謄写了。			日記(小野文庫418)	
19440200	昭和19/02/xx	本月中書写の書物『万里砂』二冊『虻蜂録』(二分の一)			日記(小野文庫418)	
19440206	昭和19/02/06	雑萃院に行き、『紙衣膳』校正了。天祥院にて鳶魚宛紙二百枚送付を依頼(戸羽山澆受付)。中村を訪問。『唱語故実』返却。			日記(小野文庫418)	
19440207	昭和19/02/07	鳶魚へ『紙衣膳』『唱語故実』を書留小包にて送付。			日記(小野文庫418)	
19440211	昭和19/02/11	雑萃院に行き、『虻蜂録』謄写。布施をなす。			日記(小野文庫418)	
19440213	昭和19/02/13	雑萃院に行き、『虻蜂録』謄写。天祥院に行く。コンデンス乳を贈り、すぐきを貰う。『万里砂』一冊返却。			日記(小野文庫418)	
19440214	昭和19/02/14	鳶魚より書。即日返信す。			日記(小野文庫418)	
19440217	昭和19/02/17	『万里砂』書写了。			日記(小野文庫418)	
19440220	昭和19/02/20	雑萃院、天祥院に行く。『万里砂』一冊返却し、同写本二冊渡す。			日記(小野文庫418)	
19440227	昭和19/02/27	雑萃院に行く。天祥院面会。			日記(小野文庫418)	
19440300	昭和19/03/xx	本月中書写の書物『虻蜂録』『挙一明三』			日記(小野文庫418)	
19440303	昭和19/03/03	雑萃院に行き、『虻蜂録』謄写。天祥院不在。			日記(小野文庫418)	

19440305	昭和19/03/05	雑萃院に行き、『虻蜂録』謄写。務より鳶魚に宛てた『唱語故実』『紙衣謄』届く。			日記(小野文庫418)、演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	
19440308	昭和19/03/08	鳶魚より書。			日記(小野文庫418)	
19440309	昭和19/03/09	鳶魚より書。			日記(小野文庫418)	
19440310	昭和19/03/10	小野麗子・恵嗣・晃嗣・介嗣、淡路志筑へ疎開。(～昭和22/02)			「[忍頂寺務略年譜]」(小野文庫474)・「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19440311	昭和19/03/11	雑萃院に行く。茶および布施。			日記(小野文庫418)	
19440312	昭和19/03/12	雑萃院に行く。天祥院を訪問。			日記(小野文庫418)	
19440314	昭和19/03/14	鳶魚より書。			日記(小野文庫418)	
19440318	昭和19/03/18	中村より書。陽明文庫の件。			日記(小野文庫418)	
19440319	昭和19/03/19	雑萃院に行く。布施。『虻蜂録』書了。			日記(小野文庫418)	
19440322	昭和19/03/22	務より鳶魚に書あり、直ぐさま「弓物一切打切」と返信。			演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	
19440326	昭和19/03/26	雑萃院に行く。天祥より写本全部持ち帰る。妙心寺より中村へ五十円渡す。			日記(小野文庫418)	
19440403	昭和19/04/03	鳶魚より書。坂本観山文庫行き。の件。			日記(小野文庫418)	
19440409	昭和19/04/09	雑萃院に行く。天祥院不在。鳶魚へ書。坂本行き断る。中村面会。			日記(小野文庫418)	
19440416	昭和19/04/16	天祥院に行く。法然院に行き、打ち合わせ。			日記(小野文庫418)	
19440428	昭和19/04/28	天祥院より書。来月三日の法然院行きの件。			日記(小野文庫418)	
19440500	昭和19/05/xx	本月中書写の書物、法然院『書籍目録』『左右軒長野采女手簡』『忍徴上人書簡』			日記(小野文庫418)	
19440503	昭和19/05/03	天祥院に行く。天祥同道にて聖沢院に行き、聖沢同道にて獅子谷法然院に行き、『書籍目録』写す。坂本行き五月十二日予定。			日記(小野文庫418)	同日記末尾に「聖沢院 稲垣仁山殿」とあり。
19440504	昭和19/05/04	鳶魚へ『書籍目録』送る。(同封にて)昨年十二月十一日付の南陵送金に対する計算報告をする。			日記(小野文庫418)	
19440507	昭和19/05/07	鳶魚より書。法然院の件、他。			日記(小野文庫418)	
19440510	昭和19/05/10	法然院に行く。天祥院より半紙二百四十枚受取。「長野采女手簡」謄写。			日記(小野文庫418)	
19440514	昭和19/05/14	法然院に行く。鳶魚より書。『万記書籍』謄写。			日記(小野文庫418)	
19440515	昭和19/05/15	鳶魚より書。鳶魚より務に宛て五十円を送る。			日記(小野文庫418)、演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	
19440517	昭和19/05/17	天祥院より電車賃を受く。法然院に行く。左右軒法要布施を納む。鳶魚より為替入金を受く。			日記(小野文庫418)	
19440521	昭和19/05/21	黒谷光明寺に望月師を訪ふも不在。法然院に行き中村を訪問するが同様。			日記(小野文庫418)	
19440522	昭和19/05/22	兵庫江川町藤ノ寺に望月師を訪う。菓子料贈る。			日記(小野文庫418)	
19440528	昭和19/05/28	法然院に行き、「左右軒」渡す。			日記(小野文庫418)	
19440529	昭和19/05/29	鳶魚より書。			日記(小野文庫418)	
19440600	昭和19/06/xx	本月中書写の書物、『長野采女行業記』『忍徴和尚鶴林記』『七ヶ日=』			日記(小野文庫418)	
19440602	昭和19/06/02	法然院に行き、『大成経』木活十六巻披見。聖沢院を訪問。天祥院留守。			日記(小野文庫418)	
19440605	昭和19/06/05	妙心寺法命局に紙の返事をする。務より鳶魚に宛てた「采女手柬」届く。			日記(小野文庫418)、演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	
19440607	昭和19/06/07	法然院に行く。菓子料贈る。			日記(小野文庫418)	
19440608	昭和19/06/08	鳶魚に書。五月十七日送金の計算書。			日記(小野文庫418)	
19440614	昭和19/06/14	法然院に行く。鳶魚より書。天祥院に行き、釈・沢田両師に面会。			日記(小野文庫418)	
19440616	昭和19/06/16	鳶魚より務に宛て送金。			演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	
19440618	昭和19/06/18	法然院に行く。鳶魚より書。送金を受く。			日記(小野文庫418)	
19440618	昭和19/06/18	小野弘、ジャワ出張。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19440619	昭和19/06/19	沢口来訪。紙の件。務より鳶魚に宛てた『万里砂』『伝春寮略須知』届く。			日記(小野文庫418)、演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	同日記末尾に「大本山妙心寺 大法会局常在委員 沢口泰憲」の名刺を挟む。
19440625	昭和19/06/25	法然院に行く。			日記(小野文庫418)	
19440626	昭和19/06/26	鳶魚より書。			日記(小野文庫418)	
19440628	昭和19/06/28	務より鳶魚に宛て『豪盛口訣』『妙心寺出世次第覚書繪旨』届く。			演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	
19440702	昭和19/07/02	中村を訪う。『困譚』他一冊借りる。法然院に行く。忍徴上人香資差し出す。鳶魚より書。中村に紙六十枚渡す。			日記(小野文庫418)	
19440705	昭和19/07/05	務より鳶魚に宛て『鶴林記』届く。			演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	



19440716	昭和19/07/16	法然院に行く。『神道大系』他謄写。九日、忍徴和尚回向す。			日記(小野文庫418)	
19440719	昭和19/07/19	法然院に行く。方丈不在。			日記(小野文庫418)	
19440725	昭和19/07/25	鳶魚、務に宛て『水月ものはなし』等小包にて返却。			演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	
19440807	昭和19/08/07	鳶魚、務に宛て小包一つ出す。			演博蔵・鳶魚日記(『演劇研究』32号)	
19441014	昭和19/10/14	妻琴代、手術のため上田病院に入院。(～昭和19/11/19)			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19441205	昭和19/12/05	沢口師来訪。			日記(小野文庫418)	
19450529	昭和20/05/29	妻琴代、淡路志筑にて逝去。持明院清平妙琴大姉。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19450800	昭和20/08/xx	須磨区西尾邸に転居。(～昭和23/08)	神戸市須磨区離宮西町一丁目西尾邸内		「[忍頂寺務略年譜]」(小野文庫474)および務宛書簡宛先	
19450900	昭和20/09/xx	「雑炊をかけ忘れたる榎火かな」の一句成る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19451226	昭和20/12/26	孫小野介嗣の誕生日に、「榎火して笹鳴きを聞く朝なりき」の一句を詠む。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19460101	昭和21/01/01	歳旦吟「御慶申すも自問自答の雑煮かな」。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19460117	昭和21/01/17	中村幸彦より書。『近代歌謡考説』出版について、鳶魚序文依頼のこと。			三田村鳶魚「日記」	
19460128	昭和21/01/28	妹きくゑの夫畠田誠一、東京にて逝去。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19460512	昭和21/05/12	小野弘、ジャワより須磨へ帰還。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19461021	昭和21/10/21	中村幸彦より書。『近代歌謡考説』出版について。			三田村鳶魚「日記」	
19461028	昭和21/10/28	中村幸彦より書。『近代歌謡考説』出版について。			三田村鳶魚「日記」	
19461104	昭和21/11/04	中村幸彦より書。『近代歌謡考説』出版について。			三田村鳶魚「日記」	
19461115	昭和21/11/15	中村幸彦より書。『近代歌謡考説』出版について。			三田村鳶魚「日記」	
19461201	昭和21/12/01	中村幸彦より書。『近代歌謡考説』出版について。			三田村鳶魚「日記」	
19461200	昭和21/12/xx	歳末、拾った財布を落とし主に返す。狂歌「春袋おとしだまとて祝ひつゝ暮に拾ひし財布かへさん」「くれのかねおとしたまゝと思ひしを捨てたまはる今朝ぞうれしき」。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19470108	昭和22/01/08	神戸に帰る。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19470117	昭和22/01/17	淡路へ行き、翌18日転出手続き。19日帰神、神戸転入手続き。この年、月に複数回淡路・神戸を往復。また、天理・伊丹・城崎へ頻りに足を運ぶ。翌年もほぼ同様。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19470123	昭和22/01/23	天理へ行く。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19470205	昭和22/02/05	小野麗子および孫恵嗣・晃嗣・介嗣、疎開先の淡路志筑から須磨へ転居。「孫の舌のまはりかねたる御慶かな」「孫の顔ならべて見たる雑煮かな」「春の宵孫の寝息の静かなる」「老日永伽羅のかほりも唱ひけり」の四句成る。(「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)では、「孫の舌の」「孫の顔」「春の宵」の三句に、「我輩は前生は蛇神エチヨデズ日の本に来て淡路島守」の一首を付す。)			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19470300	昭和22/03/xx	『近代歌謡考説』自序成る。				
19470306	昭和22/03/06	鳶魚の『近代歌謡考説』序成。			三田村鳶魚「日記」	
19470420	昭和22/04/20	中村幸彦より書。『近代歌謡考説』出版計画挫折のこと。			小野文庫蔵中村幸彦書簡	
19470424	昭和22/04/24	天理へ行く。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19470509	昭和22/05/09	小野弘・麗子の長女暢子誕生。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19470612	昭和22/06/12	陳書会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	務の「[手帳]」には「陳書会」とのみあり、出席は類推。以下「金曜会」も同じ。
19470826	昭和22/08/26	天理へ行く。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471003	昭和22/10/03	吉田書店へ本代250円送金。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471016	昭和22/10/16	陳書会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	

19471026	昭和22/10/26	東京へ行く。(10/31帰神)			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471028	昭和22/10/28	畠田誠一長女敦子の結婚式に出席。(於・東京三越)結婚を祝して、「菊植えて閑暁の詩をばうたひけり」の一句を贈る。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471119	昭和22/11/19	天理へ行く。書物の貸借あり。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471205	昭和22/12/05	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471211	昭和22/12/11	天理へ行く。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471212	昭和22/12/12	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471213	昭和22/12/13	陳書会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471219	昭和22/12/19	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19471226	昭和22/12/26	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480109	昭和23/01/09	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480116	昭和23/01/16	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480123	昭和23/01/23	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480130	昭和23/01/30	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480206	昭和23/02/06	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480213	昭和23/02/13	陳書会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480222	昭和23/02/22	史談会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480227	昭和23/02/27	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480305	昭和23/03/05	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480312	昭和23/03/12	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480326	昭和23/03/26	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480328	昭和23/03/28	史談会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480416	昭和23/04/16	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480423	昭和23/04/23	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480427	昭和23/04/27	吉田書店へ本代280円支払う。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480430	昭和23/04/30	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480501	昭和23/05/01	陳書会出席。(於・高橋宅)			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480504	昭和23/05/04	森谷書房より、注文書籍出荷の通知ハガキ着。		『浮世狂界詩林選』他(務←森谷書房)	『(浮世／狂界)詩林選』(忍頂寺文庫C20)挟み込みハガキ	1点返品。
19480507	昭和23/05/07	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	

19480510	昭和23/05/10	森谷書房へ本代70円送金。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)、 『(浮世ノ狂界)詩林選』 (忍頂寺文庫C20)挟み込みハガキ	書店からの請求額は60円 +送料5円。
19480514	昭和23/05/14	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480521	昭和23/05/21	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480604	昭和23/06/04	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480607	昭和23/06/07	天理図書館へ行き、元禄の吉原細見を調べる。			「[自筆ノート]」(小野文庫409)	
19480609	昭和23/06/09	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	
19480611	昭和23/06/11	金曜会出席			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480618	昭和23/06/18	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480625	昭和23/06/25	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480628	昭和23/06/28	淡路志筑の忍頂寺本家臨池庵にあった十三重塔および五智如来、引撰寺へ移され、その後、本家の居宅・庭、売却される。			「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)	
19480702	昭和23/07/02	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480705	昭和23/07/05	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	
19480709	昭和23/07/09	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480710	昭和23/07/10	陳書会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480716	昭和23/07/16	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480718	昭和23/07/18	史談会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480723	昭和23/07/23	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480724	昭和23/07/24	史談会メンバー、河辺・中谷・貞永・折茂2名・務の計6名にて淡路志筑行き。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	7月25日付の諸費用中に引撰寺の名がみえる。
19480806	昭和23/08/06	婿、鳶魚を訪う。			三田村鳶魚「日記」	
19480806	昭和23/08/06	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480807	昭和23/08/07	鳶魚より書。陳書会出席。			三田村鳶魚「日記」、 「[手帳(昭和二十二年度)]」 (小野文庫419)	
19480818	昭和23/08/18	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	
19480819	昭和23/08/19	鳶魚より書。			三田村鳶魚「日記」	
19480821	昭和23/08/21	小野麗子および恵嗣・晃嗣・介嗣・暢子、淡路浦村に移住。(～昭和25/03) 務は神戸に残ることとし、浦村と神戸を行き来する。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)、 「[忍頂寺務略年譜]」(小野文庫474)	「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)では、昭和23/08/24とする。
19480826	昭和23/08/26	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	
19480903	昭和23/09/03	金曜会出席。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480905	昭和23/09/05	浜家来訪、綿谷を訪問。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480907	昭和23/09/07	鳶魚宅へ荷物送る。中谷来訪。			三田村鳶魚「日記」、 「[手帳(昭和二十二年度)]」 (小野文庫419)	
19480913	昭和23/09/13	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	

19480915	昭和23/09/15	東京へ行く。翌16日世田谷、田園調布を訪問。	東京		「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480916	昭和23/09/16	鳶魚宅へ行く。すぐ帰る。			三田村鳶魚「日記」	
19480917	昭和23/09/17	鳶魚宅へ居候。(鳶魚編纂の『江戸語彙』(未完)の作業のためか)この頃、「糸瓜残して淡路へ帰る一家哉」「書物売つて転宅しけり須磨の秋」の二句成る。	東京都世田谷区世田谷一丁目 三田村方		三田村鳶魚「日記」、菊池明「三田村鳶魚翁—逍遙・演劇研究・そして晩年—」(『論集近世文学2 歌舞伎』平成03/05、勉誠社)、「[忍頂寺務句集]」(仙台忍頂寺家)、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	「[忍頂寺務略年譜]」(小野文庫474)では、昭和23年8月～昭和23年末頃とするが、9月～の誤りか。
19480918	昭和23/09/18	鳶魚と豪徳寺へ、満道師の故栖を見る。後、鳶魚と源正寺と西鶴輪講(第二回)に行く。出席、木村、柴田、鈴木、森。			三田村鳶魚「日記」、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480919	昭和23/09/19	鳶魚と同道、佐成氏を訪う。不逢。			三田村鳶魚「日記」	
19480921	昭和23/09/21	鳶魚と同道、葉山の松尾宅へ行く。			三田村鳶魚「日記」、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19480925	昭和23/09/25	東洋大学専門部講師に就任。			「昭和二三年一月二四日消印井筒正三書簡」同封の「証明書」(仙台忍頂寺家)	
19480927	昭和23/09/27	田園調布へ行く。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481003	昭和23/10/03	田中を訪問。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481006	昭和23/10/06	朝、柴田宵曲を訪ね、江戸語彙の原稿(力行)を渡す。			『柴田宵曲翁日録』、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481010	昭和23/10/10	鳶魚と同道、佐成氏を訪う。快談。辰巳屋より書籍購入。			三田村鳶魚「日記」、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481016	昭和23/10/16	源正寺にて西鶴輪講会(第三回)。宵曲に江戸語彙(サ行)を手渡す。			三田村鳶魚「日記」、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481017	昭和23/10/17	阿部、田園調布へ行く。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481019	昭和23/10/19	鳶魚と葉山へ。『好色一代女』開会。			三田村鳶魚「日記」、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481021	昭和23/10/21	辰巳屋へ行き、書籍代950円支払う。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481024	昭和23/10/24	鳶魚同道、大場信統を訪う。			三田村鳶魚「日記」	
19481027	昭和23/10/27	島田来訪。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481029	昭和23/10/29	田園調布へ行く。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481103	昭和23/11/03	阿部、田中を訪問。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481107	昭和23/11/07	田中を訪問。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481109	昭和23/11/09	柴田を訪ね、江戸語彙の原稿(サ行)を渡す。			三田村鳶魚「日記」、「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	
19481111	昭和23/11/11	河竹来訪。			「[手帳(昭和二十二年度)]」(小野文庫419)	

19481112	昭和23/11/12	鳶魚同道、柴田三之助を訪う。不逢。三越展覧会へ行く。			三田村鳶魚「日記」、「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481113	昭和23/11/13	鳶魚、吉田幸一と烏山の西鶴輪講会へ行く。阿部、遠藤来訪。			三田村鳶魚「日記」、「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481114	昭和23/11/14	島田来訪。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481116	昭和23/11/16	西鶴輪講会。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481117	昭和23/11/17	小川恭一に会う。本覚院へ行く。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481124	昭和23/11/24	阿部を訪問。鳶魚、河竹、柴田と北光書房にて会同。			三田村鳶魚「日記」、「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481128	昭和23/11/28	島田来訪。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481202	昭和23/12/02	午前中柴田宵曲に『江戸語彙』(夕行)を渡す。			『柴田宵曲翁日録』、「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481205	昭和23/12/05	田園調布へ行く。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481210	昭和23/12/10	島田来訪。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481211	昭和23/12/11	東大研究室へ行く。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481214	昭和23/12/14	葉山へ行く。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481218	昭和23/12/18	鳶魚と烏山の西鶴輪講会へ。柴田に『江戸語彙』(夕行残り)を渡す。			三田村鳶魚「日記」、「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481220	昭和23/12/20	中野の一九会へ行く。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481221	昭和23/12/21	東西出版社へ行く。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481222	昭和23/12/22	リーダーズ社へ行く。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481224	昭和23/12/24	書物展望社社へ行く。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481225	昭和23/12/25	山崎より送金500円あり。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481230	昭和23/12/30	田園調布へ行く。税金領収書渡す。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19481231	昭和23/12/31	東京を午後五時の列車で発ち帰郷。			三田村鳶魚「日記」、「忍頂寺務句集」(仙台忍頂寺家)、「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19490101	昭和24/01/01	西尾邸に入る(カ)。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	務の「手帳」には「井筒西尾」とのみ記載。
19490104	昭和24/01/04	志筑へ行く。笹山、浄見、堀と会す。	淡路浦村(東浦町)		「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19490105	昭和24/01/05	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	
19490107	昭和24/01/07	金曜会出席。浜家、江見と会す。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19490109	昭和24/01/09	長唄。智蔵院13回忌。			「手帳(昭和二十二年度)」(小野文庫419)	
19490115	昭和24/01/15	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	

19490119	昭和24/01/19	18日出立、東京へ行く。三田村鳶魚邸に入り、「渡り鳥足のつめたき丸寝かな」の一句成る。	東京		「三田村鳶魚「日記」、〔忍頂寺務句集〕(仙台忍頂寺家)、「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490120	昭和24/01/20	田園調布へ行く。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490122	昭和24/01/22	吉田幸一、鳶魚と烏山の輪講会へ。森、前回に続き欠席。			三田村鳶魚「日記」、〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490123	昭和24/01/23	島田来訪。上野図書館へ行き、万治の吉原細見を調べる。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)、 「〔自筆ノート〕」(小野文庫409)	
19490125	昭和24/01/25	鳶魚と葉山へ。以文、南陵氏あり。一泊。			三田村鳶魚「日記」、〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490126	昭和24/01/26	北光より補正原稿持ち帰る。			三田村鳶魚「日記」	
19490130	昭和24/01/30	阿部を訪問、島田来訪。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490202	昭和24/02/02	島田を訪問。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490208	昭和24/02/08	島田、阿部を訪問。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490212	昭和24/02/12	「全日本文化協会報告」来る。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	「一人アタリ、¥97.18」との付記は、会費か。
19490214	昭和24/02/14	胃痛あり。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490220	昭和24/02/20	野田を訪問。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490227	昭和24/02/27	阿部を訪問。胃痛あり。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490301	昭和24/03/01	屋頃柴田宵曲を訪れ、『江戸語彙』原稿を渡す。			『柴田宵曲翁日録』、〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490306	昭和24/03/06	田園調布へ行く。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490311	昭和24/03/11	柴田へ葉書を出す。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490312	昭和24/03/12	島田来訪。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490314	昭和24/03/14	野田を訪問。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490315	昭和24/03/15	鳶魚傘寿の賀。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490316	昭和24/03/16	鳶魚、葉山へ、務は行かず。			三田村鳶魚「日記」、〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	務の「〔手帳〕」には「葉山行」と記載あり。
19490319	昭和24/03/19	柴田を訪問。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490321	昭和24/03/21	田中を訪問。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490325	昭和24/03/25	転出手続きをとる。			三田村鳶魚「日記」、〔忍頂寺務句集〕(仙台忍頂寺家)、「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490326	昭和24/03/26	田中、阿部、秋葉、野田を訪問。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	
19490328	昭和24/03/28	田園調布、野田を訪問。			「〔手帳(昭和二十二年度)〕」(小野文庫419)	

19490329	昭和24/03/29	島田、野田、田園調布へ行く。			「[手帳(昭和二十二年 度)]」(小野文庫419)	
19490330	昭和24/03/30	帰郷。浜家宅に宿泊。東京から淡路への帰郷途次、月初めの金曜会に出席。			「[手帳(昭和二十二年 度)]」(小野文庫419)、『金 曜』4(昭和24/04)	金曜会出席、あるいは翌 31日か。
19490331	昭和24/03/31	浦村着。狂歌「十六夜とたちまち出でんこの本をぬまぢもせずにしづきへぞいぬ」成る。	淡路浦村(東浦町)		「[手帳(昭和二十二年 度)]」(小野文庫419)、 「[忍頂寺務句集]」(仙台 忍頂寺家)	
19490405	昭和24/04/05	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	
19490415	昭和24/04/15	鳶魚へ『教草』送る。			三田村鳶魚「日記」	
19490428	昭和24/04/28	鳶魚より書。中村幸彦より忍頂寺通報の書目の書物なしと申しこす由。			三田村鳶魚「日記」	
19490500	昭和24/05/xx	雑誌『金曜』の編輯同人となる。その他の編輯同人は池長孟、川崎芳熊、直木太一郎、増田五良、松井佳 一、岡田利兵衛、長田富作。世話人は西村貫一。			『金曜』5(昭和24/05)	
19490502	昭和24/05/02	鳶魚より書。中村幸彦より『諺の通』他20点ばかり資料届到の由。			三田村鳶魚「日記」	
19490510	昭和24/05/10	鳶魚へ書。			三田村鳶魚「日記」	
19491222	昭和24/12/22	小野弘・麗子次女方子誕生。			「[忍頂寺務句集]」(仙台 忍頂寺家)	
19500300	昭和25/03/xx	生駒へ転居。「久仰の眼に霞みけり宝山寺」「鯖鮎や藻のかげに寄る一休み」の二句成る。	奈良県生駒郡生駒町 菜畑		「[忍頂寺務略年譜]」(小 野文庫474)・「[忍頂寺務 句集]」(仙台忍頂寺家)	
19501220	昭和25/12/xx	月末より風邪を患う。			「[忍頂寺務略年譜]」(小 野文庫474)	
19510101	昭和26/01/01	歳旦吟「健啖の孫にほゝえむ雑煮かな」「御所の湯に石を刻むと初夢に」。			「[忍頂寺務句集]」(仙台 忍頂寺家)	
19510127	昭和26/01/27	脳溢血にて倒れるも意識はあり。			「[忍頂寺務略年譜]」(小 野文庫474)・「[忍頂寺務 句集]」(仙台忍頂寺家)	
19510300	昭和26/03/xx	漸次快方に向かうが、左半身麻痺あり。			「[忍頂寺務略年譜]」(小 野文庫474)	
19510412	昭和26/04/12	淡路志筑に墓碑建立。			「[忍頂寺務句集]」(仙台 忍頂寺家)	
19511002	昭和26/10/02	未明に再発。意識不明。			「[忍頂寺務略年譜]」(小 野文庫474)	
19511004	昭和26/10/04	奈良生駒にて逝去。享年六十六。戒名は「眞観院流芳静村居士」。死に際しては、生前に自ら告別の文章を 草す。				
19540325	昭和29/03/25	山村太郎の薦めにより、務遺族より大阪大学文学部に務の蔵書を譲る			「[忍頂寺務句集]」(仙台 忍頂寺家)	
19601028	昭和35/10/28	大阪大学国文学研究室において、忍頂寺本の稀本について解説を付した目録を作成し、『語文』誌上に掲載 する計画あり。それに先立ち、山村太郎から務遺族に、文庫の由来にかかる資料提供の依頼が示される。			「[忍頂寺務句集]」(仙台 忍頂寺家)	
19650913	昭和40/09/13	山陽電鉄正木紳および務遺族、大阪大学国文学研究室を訪問。「忍頂寺静村文庫」として務蔵書の収蔵を確 認する。			「[忍頂寺務句集]」(仙台 忍頂寺家)	
19980500	平成10/05	「文学部創立五十周年記念 忍頂寺文庫特輯」、『語文』誌上に掲載。			『語文』70輯	
20000600	平成12/06	小野麗子所蔵の務旧蔵資料および務自筆稿本類・務宛書簡等、大阪大学附属図書館に譲る。「小野文庫」と 名付く。				
20080300	平成20/03	「大阪大学附属図書館蔵 小野文庫目録」成る。			『調査研究報告』28号	
20110300	平成23/03	「仙台忍頂寺家所蔵資料目録」成る。			『調査研究報告』31号	
20110300	平成23/03	『大阪大学附属図書館蔵 忍頂寺文庫目録』成る。				